

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年8月3日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報		7月の価格情報			生育及び価格の8月上旬までの見通し	
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格(平成)	下旬	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格(平成)	7月の価格情報			
				月上旬	中旬		
葉 茎 菜	キャベツ	67.20	82 (122%)	74.19	83 (112%)	75 (101%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量: 15,431t</li> <li>・主産地: 群馬(79)、岩手(14)</li> <li>・群馬産は、干ばつの影響と後続産地の生育遅れから、平年よりやや少なめの出荷となっており、気温の高い状態が続く中で病害の発生はないものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、干ばつの影響で生育に停滞が見られ、小玉傾向で平年より少なめの出荷となっており、最近の降雨により回復傾向にあるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・群馬産及び岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年並みの価格は平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・茨城産は、7月上旬の降雨による収穫の遅れで平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、干ばつ傾向ではあるものの最近の降雨もあり生育に大きな影響はなく、平年並みの出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・長野産は、最近の降雨後の強い日差しと高温から病害の発生やほくさいの巻きが弱く、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も大きな増加は見込まれないので、平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・栃木産は、梅雨明け後の急激な気温の上昇により病害が発生したため、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の安定に伴い生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、山間部からの出荷となり、7月の天候不順の影響で生育が停滞し、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は病害の発生もなく生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温が高いものの生育は順調で平年並みの出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。岩手産は、高温障害と干ばつの影響から引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</li> <li>・栃木産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、岩手産が平年より少なめの出荷と見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・長野産は、降雨後の強い日差しと高温が続いているため病害が発生しており、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、天候の安定に伴い病害から回復が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、7月の長雨後の高温の影響による生育不良から品質劣化と小玉傾向となっていることから、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・北海道産は、順調な生育で8月のお盆以降本格化的な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、前進出荷で平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・北海道産及び兵庫産の出荷が平年並みの出荷と見込まれるものの、価格は現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
		81.66	91 (111%)	88.91	88 (99%)	77 (87%)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	264.10	421 (159%)	273.33	456 (167%)	416 (152%)	
		334.73	306 (91%)	487.13	295 (61%)	305 (63%)	
	はくさい	67.05	88 (131%)	58.82	72 (122%)	67 (114%)	
		77.96	95 (122%)	62.79	75 (119%)	71 (113%)	
	ほうれんそう	376.10	484 (129%)	583.95	562 (96%)	672 (115%)	
		396.89	584 (147%)	670.86	637 (95%)	652 (97%)	
	レタス (結球)	120.13	121 (101%)	120.13	121 (101%)	146 (122%)	
		125.61	127 (101%)	125.61	127 (101%)	160 (127%)	
たまねぎ	71.02	121 (170%)	84.85	138 (163%)	158 (186%)		
	71.02	122 (172%)	84.85	139 (164%)	158 (186%)		
果 菜	きゅうり	189.84	214 (113%)	210.69	231 (110%)	269 (128%)	
		177.22	223 (126%)	221.71	243 (110%)	273 (123%)	
	トマト (大玉)	209.59	273 (130%)	229.51	271 (118%)	300 (131%)	
		228.53	290 (127%)	271.33	284 (105%)	310 (114%)	
	なす	297.07	357 (120%)	209.55	414 (198%)	429 (205%)	
		271.01	314 (116%)	221.72	318 (143%)	343 (155%)	
	ピーマン	251.50	321 (128%)	251.50	343 (136%)	442 (176%)	
		266.65	345 (129%)	266.65	376 (141%)	426 (160%)	
	根 菜	だいこん	86.59	82 (95%)	94.60	107 (113%)	106 (112%)
			94.24	85 (90%)	100.39	108 (108%)	109 (109%)
にんじん		133.01	131 (98%)	133.01	98 (74%)	103 (77%)	
	132.62	142 (107%)	132.62	98 (74%)	108 (81%)		



種 類	6月の価格情報			7月の価格情報			生育及び価格の8月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			
		下旬		月上旬	中旬		
いも	さといも	344.00	305 (89%)	344.00	403 (117%)	561 (163%)	・宮崎産は、曇雨天が続いている影響で小玉傾向となり、また降雨により掘り取り作業が遅れていることから、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、出荷序盤であるが、4月下旬から5月中旬の干ばつと梅雨入り後の日照不足から生育にやや遅れが見られ、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量も増加してくるから、平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産の出荷が平年よりやや少なめ、千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		347.90	349 (100%)	347.90	484 (139%)	552 (159%)	
	ばれいしょ	131.80	246 (187%)	101.61	246 (242%)	231 (227%)	・北海道産は、現在道南から道内向け中心の出荷であるが、春先の作業が順調に進んだことから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、好天により肥大が進み小玉から回復傾向となっているが、最近の降雨と高温から病気も出始め、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後は終盤となることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年並み、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
131.80		258 (196%)	101.61	258 (254%)	249 (245%)		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、6月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,044gで前年比101%、購入金額は、2,157円で同109%となった。  
また、小売物価統計によると、7月のキャベツの小売価格は、160円で過去5カ年平均比100%、レタスは、421円で同127%となり、キャベツは過去5カ年平均並み、レタスは過去5カ年平均を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年		前年比	前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)		
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	1,755	99
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99	1,761	101
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	99	1,939	103
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	96	2,070	110
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	97	2,257	113
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	101	2,157	109
7月	4,402	1,737	4,542	1,770				
8月	4,315	1,731	4,275	1,846				
9月	4,688	1,844	4,745	2,035				
10月	5,191	1,902	5,455	1,973				
11月	4,990	1,700	5,291	1,704				
12月	5,146	1,927	5,233	1,977				

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」  
注：過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ			レタス		
	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)
	1月	212	229	108	684	827
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	188	137	317	392	124
7月	160	160	100	332	421	127
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。  
2 平成27年7月の値は、7月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

6月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比113%の8万1千トン、加工野菜は同96%の15万2千トン、野菜全体は、同101%の23万3千トンとなった。このうち中国産野菜合計は同103%の12万2千トンとなった。  
生鮮野菜は、前年を上回った一方で、加工野菜が前年を下回り、野菜全体では前年をやや上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1～6月		平成27年6月	
	数量(トン)	前年比	数量(トン)	前年比	数量(トン)	前年同月比	数量(トン)	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	466,571	90	81,228	113
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	885,205	95	151,760	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,351,776	93	232,988	101
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	666,930	93	122,408	103
中国産シェア	52		53		49		53	

資料：農産産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

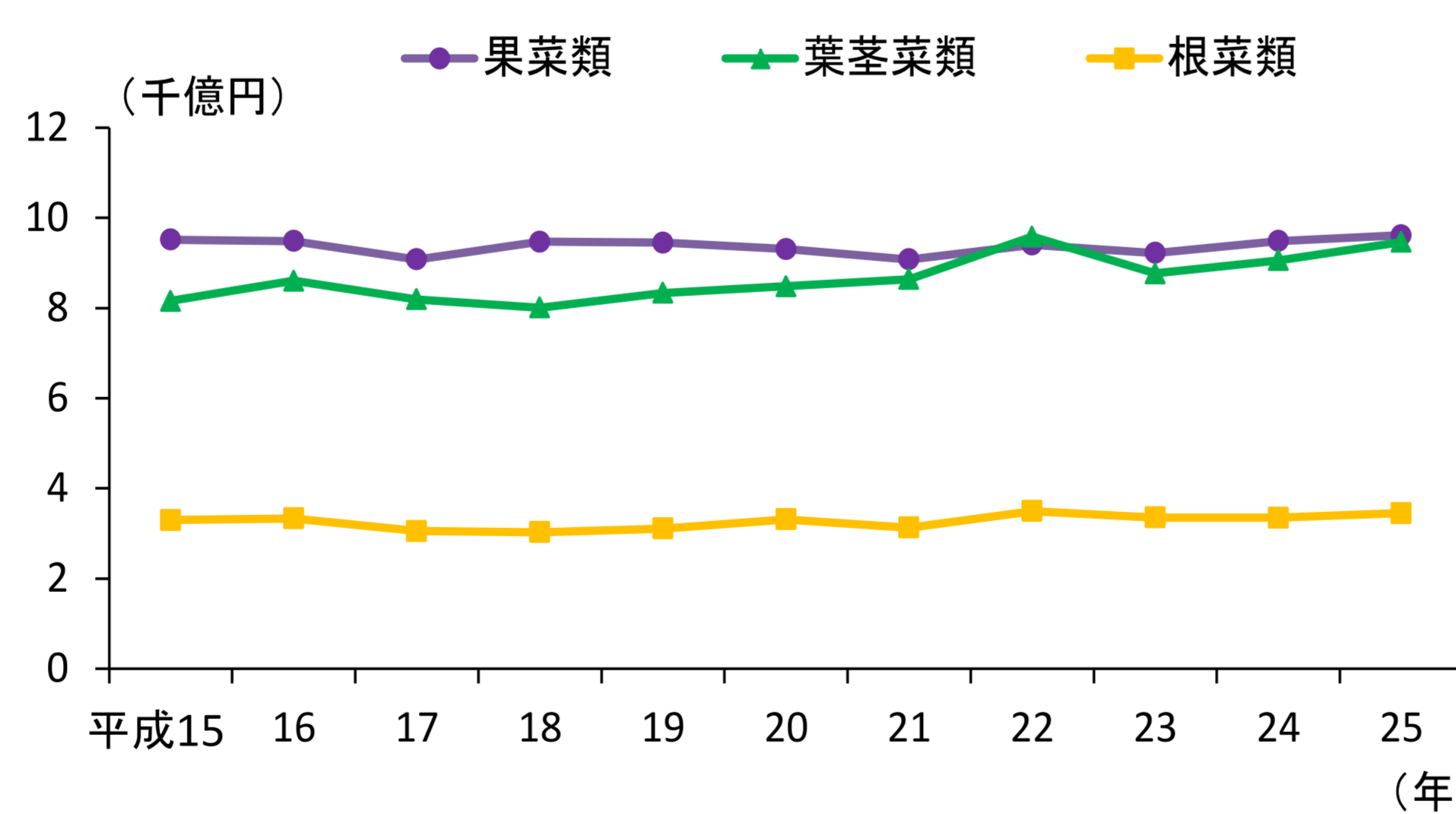
品目	輸入先	平成26年6月(A)	平成27年6月(B)	(B)/(A)
		数量(トン)	数量(トン)	(%)
たまねぎ	合計	35,172	38,983	111
	中国	31,678	32,139	101
	ニュージーランド	2,899	5,306	183
にんじん	合計	6,435	8,745	136
	中国	6,236	8,442	135
	ニュージーランド	141	216	153
ねぎ	合計	4,997	5,309	106
	中国	4,979	5,307	107

資料：農林水産省「植物防疫統計」  
注1：平成27年6月は速報値。  
注2：輸入数量は、検査数量である。  
注3：冷凍を除く。

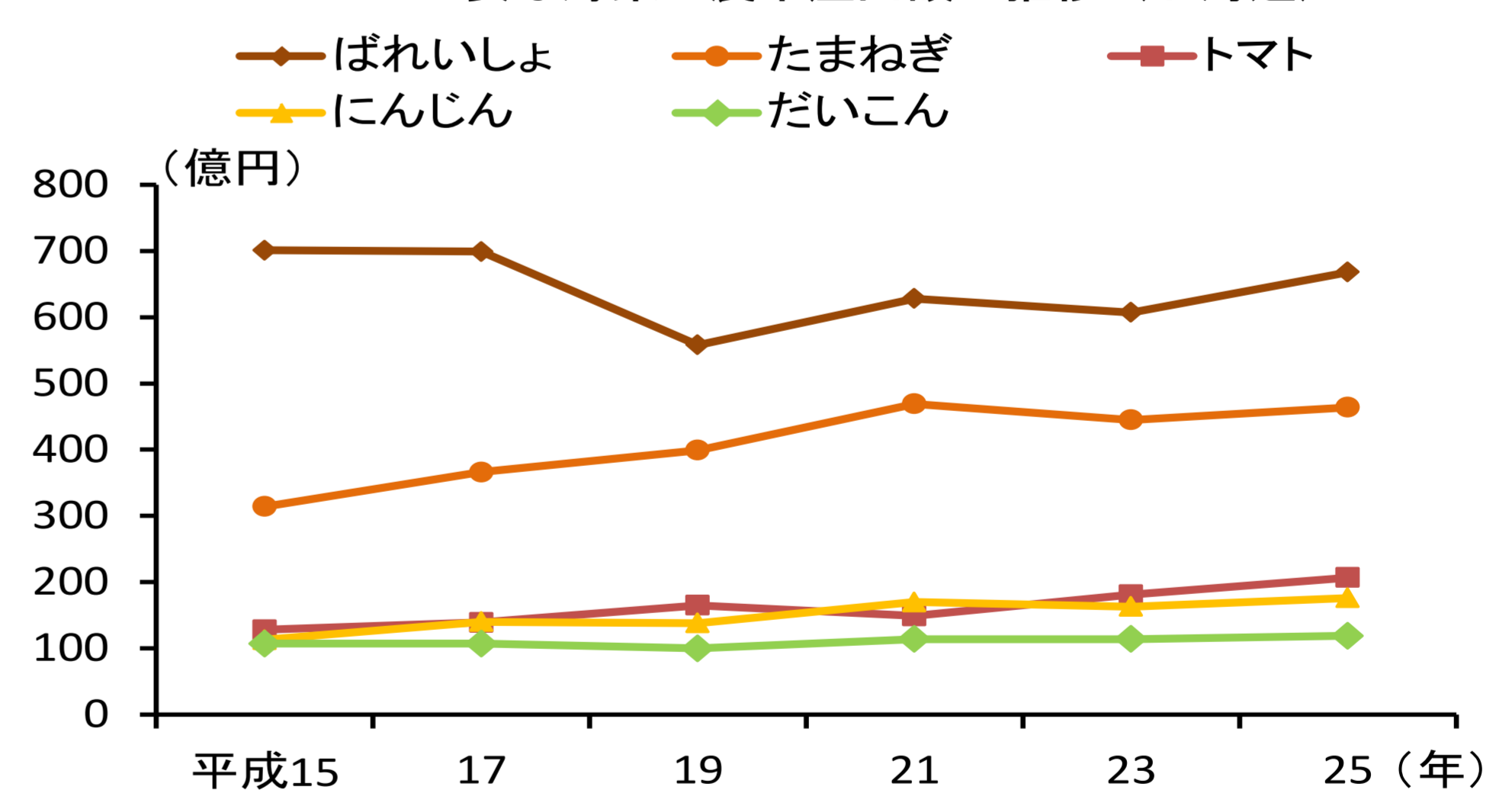
## 4 トピック — 最近の野菜の農業産出額の動向と主要産地の特徴について —

最近の野菜の農業産出額の動向と主要産地の特徴について、「平成25年生産農業所得統計」をもとに紹介する。  
平成25年の野菜部門の農業産出額は、全産出額8兆4668億円の27%を占める2兆2533億円であり、畜産部門(2兆7092億円)に次ぐ第2位となっており、平成15年に比べて7.5%増加した。  
野菜の類別を見ると、果菜類9615億円、葉茎菜類9467億円、根菜類3451億円であり、平成15年と比べると、それぞれ1.0%増、16.1%増、4.7%増であり、特に葉茎菜類の伸びが著しい。  
次に野菜の農業産出額が1千億円以上の主要産地を見ると、第1位：北海道1990億円、第2位：茨城県1767億円、第3位：千葉県1687億円、第4位：熊本県1172億円、第5位：愛知県1102億円であり、上位5道県で野菜全体の34%を占めている。また、これら上位5道県の主要産地の品目別の動向を15年対比で見ると、北海道は、たまねぎ148%、トマト162%、にんじん156%、茨城県は、はくさい167%、トマト156%、ピーマン151%、ねぎ144%、レタス134%、熊本県は、トマト154%と、それぞれ大幅な伸びを示している。このほか、愛知県はキャベツ182%、トマト121%、千葉県はキャベツ147%が伸びている。  
このように、主要産地では、その立地特性を活かし、需要が堅調な加工・業務向け野菜をはじめとした、各々の強みのある品目を中心に生産拡大の動きがみられる。  
また、従来の主要産地以外の地域でも、米からの作目転換や農業所得の拡大を図る観点から、野菜の生産振興を強化する動きが各地で見られており、主要産地の拡大とともに新たな産地形成の進展が期待されている。

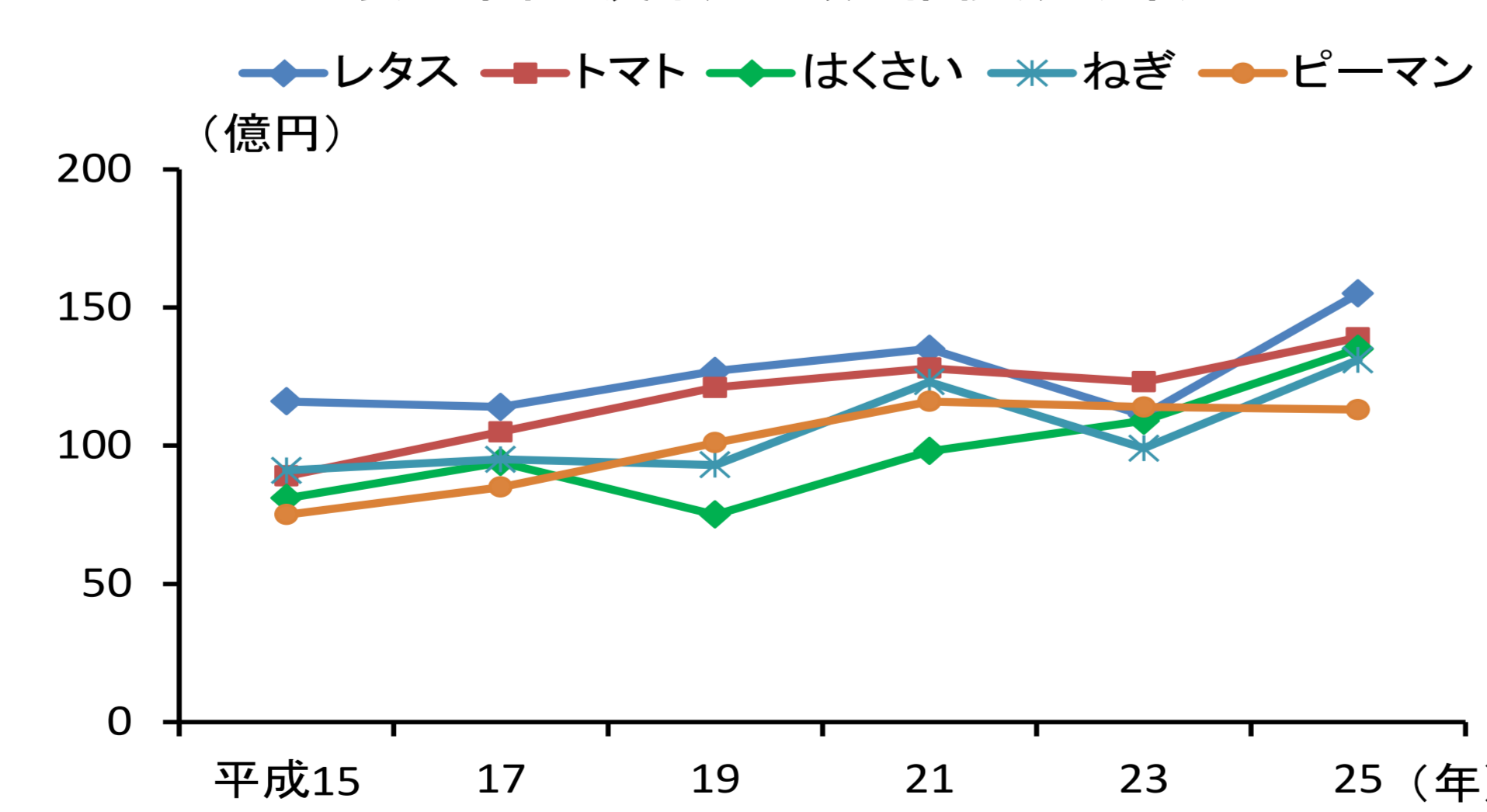
野菜の類別農業産出額の推移



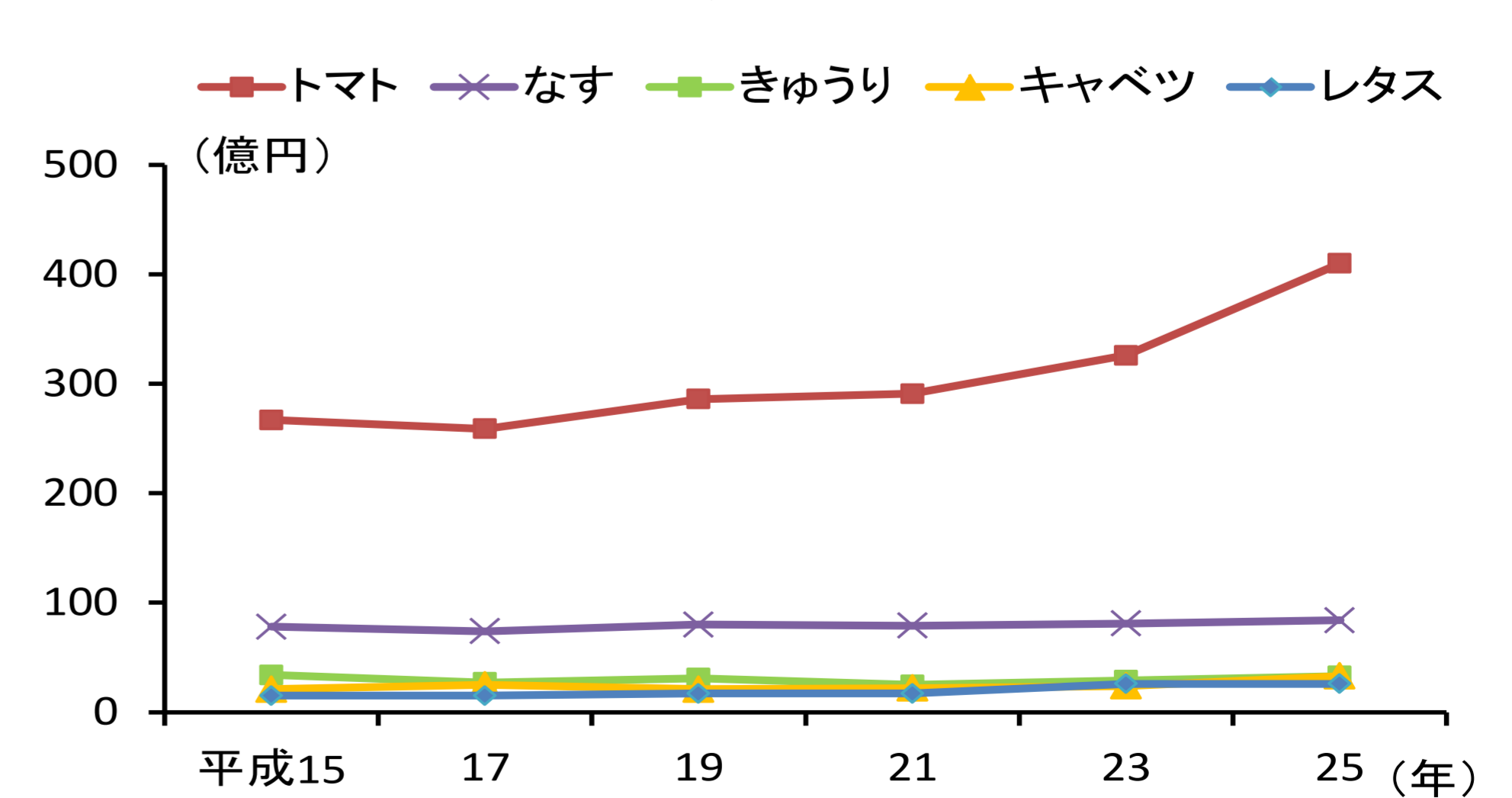
主要な野菜の農業産出額の推移(北海道)



主要な野菜の農業産出額の推移(茨城県)



主要な野菜の農業産出額の推移(熊本県)



資料：農林水産省「平成25年生産農業所得統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農産産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。  
※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。